

認知科学会ワークショップ「科学技術リテラシー育成のための学習科学へ向けて—『自律型対話プログラムによる科学技術リテラシーの育成』プロジェクトの構想と展開—」 2007/09/03 @成城大学

「自律型」グループディスカッション 能力の育成に向けた基礎研究 —司会者がいない状況での ディスカッションのあり方—

鈴木 佳奈

((株)国際電気通信基礎研究所)

kana.suzuki@atr.jp

多人数によるディスカッションが 成り立つためには・・・

- いつ, だれが, なにを話すかの統制
- 出てきた意見の要約・検討
- グループとしての最終的な意見のとりまとめ

多人数によるディスカッションが 成り立つためには・・・

- いつ, だれが, なにを話すかの統制
- 出てきた意見の要約・検討
- グループとしての最終的な意見のとりまとめ



司会者による支援

司会者のいない
状況

多人数によるディスカッションが 成り立つためには・・・

- いつ, だれが, なにを話すかの統制
- 出てきた意見の要約・検討
- グループとしての最終的な意見のとりまとめ

司会者による支援



司会者のいない
状況

司会者の有無に関連した諸問題

- 司会者がいない状況では、参加者の中から自発的に司会役を担う人が出てくるかどうか。もし出た場合、その役割は固定的か流動的か。逆にイニシアチヴを取る者がいなかった場合、発話権の分配などはどのように交渉されるのか。
- 特にプロの司会者が加わった次の回で、司会役が出現するかどうか。
- 司会者(あるいは司会役)の有無によって参加者の発話量に偏りが出るかどうか。その要因は何か。そのような偏りの有無は、ディスカッションの評価としてどうとらえるべきか。
- イニシアチヴを取る者がいる場合といない場合ではどちらが「より良いディスカッション」を実現できるか。そのとき、「良いディスカッション」とはどのような基準で判断されるか。

司会者の有無に関連した諸問題

- 司会者がいない状況では、参加者の中から**自発的に司会役を担う人**が出てくるかどうか。もし出た場合、その役割は**固定的か流動的か**。逆にイニシアチヴを取る者がいなかった場合、**発話権の分配**などはどのように交渉されるのか。
- 特にプロの司会者が加わった次の回で、司会役が出現するかどうか。
- 司会者（あるに偏りが出た場合）の有無は、イニシアチヴが「より良い」「良いディスカッション」か。

本発表での検討事項

- 司会役がいるか？
- 司会役はどう決まるのか？
- 司会役はなにをするのか？

データ収録

概要

大学生6人1グループで身近な科学技術について40分間話し合い、グループでの結論を出してもらおう。1グループにつき3回の体験。司会者による支援のありなしを条件。

収録の目的

- 大学生が話し合いをする際に見られるパターンや問題点を抽出
- 体験や支援による参加者の気づきと試行錯誤を追跡
- 「良い話し合い」と「悪い話し合い」を判断するための基準を策定
- 「良い話し合い」の例と「悪い話し合い」の例のサンプルを採取

参加者

- 関西の大学2～3回生 6名 × 9グループ
- 1グループあたりの参加者の配分
 - 文系 : 理系 = 1 : 1
 - 男女比は1:1になるようにしたが, 一部では1:2
- 司会者(支援ありの場合)
 - ビデオリサーチ定性調査部 佐藤雅子氏



支援あり／なしの組み合わせ

	パターン		
	A	B	C
1回目	司会者 あり	司会者 なし	司会者 なし
2回目	なし	あり	なし
3回目	なし	なし	なし

話し合いのテーマ

■ テーマ

- 1回目: YouTubeは規制すべきか, 規制するならどのような方法で規制すべきか。
- 2回目: 監視(防犯)カメラは設置すべきか, 設置するならどのような条件で設置すべきか。
- 3回目: 大学のレポート課題においてWikipediaの利用を認めるべきか, 認めるならどのような形での利用まで認めるか。

■ 事前参考資料配布

- ディスカッションに関連する新聞記事等
- 全員に共通した資料1枚と, 個別の資料1枚の計2枚
- 記事の内容や論調に関係なく, 意見を述べてほしい

話し合いのガイドライン

- たとえ他の人と意見が異なっても、積極的に意見を述べるようにする。
- たとえ自分の意見とは違っても、他の人の意見には必ず耳を傾ける。
- 意見の違いは自然のことで、必ずあると考えること。
- 衝突を避けて調和を保つ目的で、自分の意見を変えてはいけない。
- さまざまに異なる意見を知るためには、全員が発言することが必要。
- 自分の考えはできるだけ分かりやすく説明する。
- あまりにも簡単に、短時間でみんなの意見がまとまったときには、「どこかおかしい」と疑ってかかること。

事後アンケート・作文課題

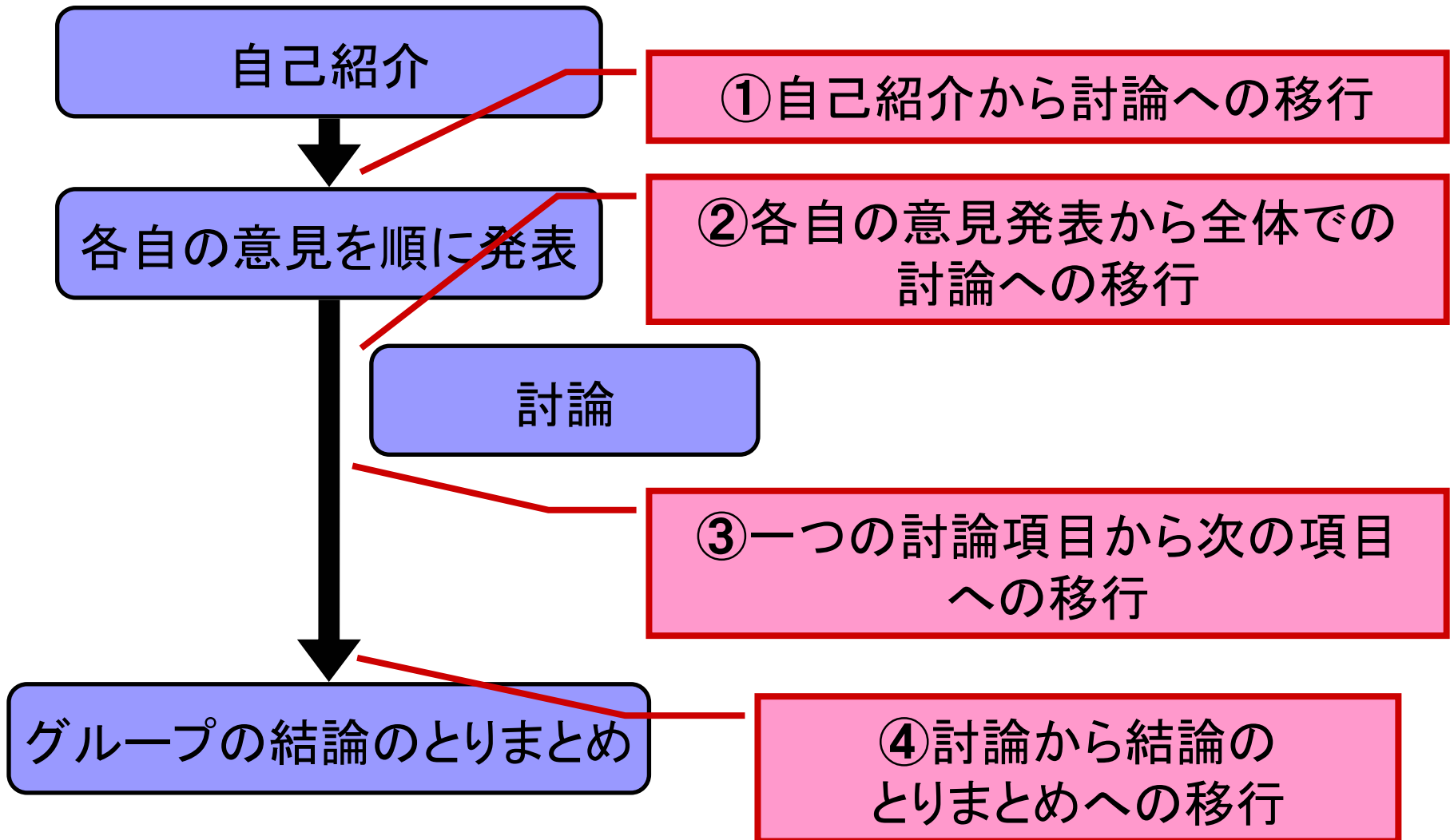
- 参加者の振り返りを促す
- 主なポイント
 - 話し合いはうまくいったか？
 - どのような結論が出たか？結論に対する納得度は？
 - 話し合いのやりかたでうまくいったこと、うまくいかなかったことは？
 - 次回に向けて改善したいことは？

本発表で検討するデータ

	パターン		
	A	B	C
1回目	司会者 あり	司会者 なし	司会者 なし
2回目	なし	あり	なし
3回目	なし	なし	なし

3グループ分: I (36:14),
II (40:46), III (38:23)

ディスカッションの流れと司会役割



(1) 自己紹介から討論への移行

- 自己紹介が一巡した後、沈黙が起こる
- 誰かが自主的に進め方を提案→他の人からの承認

【例1】グループIII (00:43～)

(沈黙)

E: で。

(笑)

A: えっと、まあ、ユーチューブ、ですがー

(沈黙)

E: 規制すべきか、規制...

(沈黙)

A: [しないべきか。

E: [しないか。

(沈黙)

A: みなさん、ユーチューブって、見られます？

(1) 自己紹介から討論への移行

【例2】グループIII (2:12~)

E: 簡単に一, 最初に, 聞いてみる。

E: 規制すべきかしないべきか。

A: あ, 今での。

E: 今での一。

D? んー

E: じゃ, 規制すべきやと思う人。

((何人か手を挙げる。))

(2)(3) 一つの討論項目から次の項目への移行

- 直前に話されている話題が収束し、沈黙が起こる
 - その話題に関連した話が誰からも追加されない
 - その場で解決できないような疑問や折衝しにくい対立意見が出てきてしまっている

【例3】グループII (16:08～)

C: どうすればいいんでしょうね。(笑)

(笑)

B: 難しい議題ですよ。

F: 難しい。

(沈黙)

【例4】グループI (28:15～)

B: 規制しなくてもいいと思うんですが…

(沈黙)

(全員での声を殺した笑い)

C: 難しいっすね。

E: まあ勉強不足もありますね。

B: とりあえずそのままはダメってゆう感じで。

(2)(3) 一つの討論項目から次の項目への移行

- これまでの全体の議論をとりあえずまとめる

【例5】グループI (28:15～)

B: とりあえずそのままはダメってゆう感じで。

- 全員に向けた質問をする

【例6】グループI (10:35～)

B: え, じゃ, して欲しくないっていう方いますけど, すべきでないっていう, 意見, は, ありますか

【例7】グループII (26:10～)

C: 今の一, じゃ結論として考えた場合, なんか, 異議がある, って人は。

- これまでの話し合いに積極的に参加していない人に話をふる

【例8】グループII (17:40～)

C: ((Dに))今の聞いてて第三者的にどうなんですか。

(4) 討論から結論のとりまとめへの移行

- 議論の最中にも、「グループ全体としての結論をどう出すべきか」は全員に意識されている
- 時間制限による強制的な移行

【例9】グループIII (35:50～)

((終了5分前の合図))

A: じゃ、まあここで、残り5分ということなんで、このグループでのはん、えーと意見をまとめるってゆうことなんですけども…

- グループとしての結論を出すのに多数決は使われない
- 一人がこれまでの議論での優勢意見をまとめる
 - 不足点は他の人たちが追加
 - 承認

まとめ

今回検討した3グループに関しては...

- 司会役はいる
 - 常に司会役が場をコントロールするわけではない
 - 司会者がいるときに見られがちな一對一の応対ではない
- 自主的に司会役を買ってでる
 - 直前に、それまでの話題が収束し、誰も話そうとしない長い沈黙が起こっている
 - 視線での暗黙の交渉、押し殺した笑い
 - 複数の人が司会役を担うこともある(ただし、司会役になる人は限定されるよう)
- 議論を次のステップに進めるとっかかりを与える
 - あくまでも「提案」であり、他の人の同調が必要
 - その場その場での対応で、話し合いの全体を見据えたものではない